

先人たちの声

北九州モデル導入の**実際**を聞きました

社会福祉法人広縁会 特別養護老人ホーム

ケアイン大鳥居

入所30名/短期入所10名
北九州市若松区大字大鳥居64-1

平成25年4月に開設。ノーマライゼーション社会の実現に向け、地域に根差した施設づくりに取り組んでいる。



- ### 北九州モデル導入の主な取組内容
- ・北九州市介護ロボット等導入支援・普及促進センター（以下、センター）実施の業務量調査とその報告を受け、主に**記録業務と周辺業務（洗濯関連）の効率化**を課題として掲げ、センターの助言を交えながら具体的な取組内容を計画。
 - ・センターから、記録ソフト導入に向けて注意するポイントや必要な準備について情報提供を受けながら、**福岡県ICT導入支援事業費補助金を申請**。また、洗濯関連業務で負担となっている**作業内容を明らかにし、乾燥機など使用備品の見直し**を検討。
 - ・記録ソフト導入後の**スムーズな活用に向けた準備**と長期的な**施設設備の見直し**を行うことができ、**今後につながる活動へと舵を切ることができた**。

北九州モデル導入の流れ (センターによる伴走支援)

		R4								R5		
		6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
準備	キックオフミーティングと今後の流れの共有	■	■	■								
調査	センターによる業務量調査と結果報告会				■	■	■					
検討	課題抽出と解決策立案に向けた意見交換						■	■	■			
実践	センターとの実施状況の共有や意見交換/振り返り								■	■	■	

統括主任
小林雄さん



1 北九州モデルに取り組もうと思ったきっかけは？

職員の募集を続けていましたが、なかなか集まらず、また、現場職員の負担も減らず、頭打ちの状況でした。そんな折、北九州モデルの話があり、**業務負担の軽減と新たな技術とシステムを活用した持続可能な介護の実現に向け**、この状況を打開するきっかけになるのではないかと思い、取組に参加することにしました。

5 取組にあたり壁になったことは？

洗濯方法については、洗濯設備の改修工事が大変であり、具体的な取組をすぐには進めることが出来ませんでした。しかし、この壁を**長期的な課題として捉えて、試行錯誤しながら少しずつ進めていくことで、今後につながる活動へと展開**できました。

2 職員との合意形成はどのように行いましたか？

まずは、全職種の代表者が集まる職員会議の場で、「北九州モデルとは何か」について説明をしました。さらに、この取組によって、人手不足による業務負担といった**日ごろから会議であがっている課題を新しい切り口で解決させていこうといった目的の明示と共有を進めた**ことで、合意形成を図ることができました。

6 今回の取組で役に立ったことは？

実際に行っている業務内容とその所要時間のデータを取る業務量調査をしたことで、「**業務の見える化**」ができ、改めて**施設全体がどのように動いているのかが明確**になりました。それにより、「**業務の協業・分業**」に向けた**新たな視点を持つこともでき**、障害者雇用や短時間雇用に向けた業務仕分けや求人の方の工夫につなげることができました。

3 多職種をどう巻き込みましたか？

各職種の役職者中心に声をかけ、看護師、介護福祉士、事務職員、管理栄養士、相談員、介護支援専門員といった多職種からなるプロジェクトチームを新たに立ち上げました。そして、**各メンバーから各々の部門へと説明や情報共有を行った**ことで、多職種かつ施設全体を巻き込んでいきました。

7 新たな取組など、今後の方針は？

導入した記録ソフトの更なる活用に向けた研修を進めています。そして今後は、ただの記録としてではなく、「**科学的介護の実現**」に向けた**データ活用を進めていく予定**です。また、**職員が働きやすく、働き続けられる環境の構築に向けた課題の整理や解決策の検討を継続し**、取り組んでいく方針です。

4 不平不満が出たとき、どのように対応しましたか？

業務改善に向けた取組自体への不平不満はありませんでしたが、**業務量調査においては、「大変そう」「うまくできるか心配」といった声が上がりました**。プロジェクトチームメンバーから、**調査の目的とその方法を丁寧に説明し、また調査後にその結果の報告と今後の展開を明確に示した**ことで、「**やってよかった**」という反応を得ることができました。

8 これから取り組む施設へのアドバイスを！

センターによる北九州モデル導入支援は一年間と短期間ですが、今後、**自分たちで課題等の解決を図る際に、何をどうしていけばよいかというポイントを押さえることができます**。また、**施設全体を客観的に捉え、見直すことのできるとても良い機会にもなります**。不安など色々あるかと思いますが、**まずはやってみてほしい**と思います。